



議会だより

松崎

No.127
令和2年4月23日

《主な内容》

第1回定例会（3月4日～3月11日）

- 令和2年度当初予算 2
- 令和元年度補正予算 6
- 町政を問う 一般質問に5議員 9

「那賀川浴いの桜」



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

予算総額36億5400万円 医療・福祉の充実を積極的に展開



令和2年第1回定例会が、3月4日から11日までの6日間で開催されました。町当局からは条例制定・一部改正が2件、令和元年度補正予算6件、令和2年度当初予算10件、人事案件その他5件が提出されました。

令和2年度一般会計予算は、前年度対比2900万円、0.8%増の総額36億5400万円となりました。主な事業としては、岩科診療所建設事業や町営テニスコート照明改修事業などが計上されました。

一人ひとりが主役となり、活力とやすらぎと感動のあるまちを展開するために、「地域が一体となった産業が盛んなまちづくり」、「健やか・安心に暮らせる福祉のまちづくり」、「防災・防犯対策が充実し安全なまちづくり」など6つの重点施策を掲げ取り組む内容となっています。

なお、岩科診療所建設に関し、これまでの指定管理者公募の手続きに瑕疵があることや、建設場所が岩科川の浸水区域内にあり、災害時に救護の拠点としての機能が担保できないことを理由に、議員2名から岩科診療所建設工事費9500万円を削除する修正案が提出されましたが、賛成少数で否決となり、当初提出された予算案が原案のとおり可決されました。

歳入

町税全体で 0.2%増

総額 6億1千万円

問 固定資産税が前年度比マイナス320万円。

高齢化が進んで、優良ではない資産は相続を放棄するという選択が増えて

いるようにテレビで放送されていた。財産が相続

されなければ、固定資産税は入らなくなるのか。

答 窓口税務課長 相続放棄という事案は当町でも出てきている。相続放棄すると、その財産は相続財産法人の持ち物になり、固定資産税を課税する

には相続財産管理人の選任などかなりの費用を要するので、実態として

そういった手続きは行われていないようだ。

結果的に納税する方が

いなくなるので、今後大きな課題になると認識している。

問 ふるさと応援寄附金が4千万円。平成30年度までは5千万円であったが、できれば高い目標を目指してもらいたい。

昨年は楽天サイトの間口を広げたがその効果と、

今年の対策は何か。

答 企画観光課長 確かに30年度までは5千万円という目標を掲げてきた

が、大きな乖離があったことから、昨年からは4

千万円とした。

新たに開設した楽天サイトからは、全ふるさと

納税の23%を占めている。

問 間口が広がって非常に効果があった。
今年度もPR、間口拡大は引き続きやっていくが、返礼品の発掘もしっかりとやっていきたい。

問 財政調整基金の取崩しが、昨年は2億4200万円、今年度が2億7400万円。残高も令和2年度末で8億2千万円余りとなるが、大規模な事業をいくつも控え、これは健全な会計状況といえるか。

答 総務課長 取崩し額は、予算上はこういう数字になっているが、決算の時点ではこれより少なくなるの見込んでいます。積立金については、決算剰余金の2分の1以上を翌々年度までに積み立てるようになるので、もう少し増えてくる。
毎年行う財政状況の分析でも健全性は保たれており、人口1人当たりの基金残高も、県内でも比較的上位に位置している。

問 診療所の件や、先延ばしになったが道の駅、その後の火葬場や清掃センターなど大きなお金が動くと思うが、他の市町と一緒にやる事業は見送ることもあるのか。

答 総務課長 大型事業がある年度に集中すると、どうしても基金の取崩しが多くなるが、共同でやる事業は、見送ることはできないと考えている。

問 県補助金で、移住就業支援事業費補助金が昨年の375万円から75万円に減った理由は。

答 企画観光課長 東京圏に在住している人が松崎町に移住し、求人情報に記載されている企業に就職した場合、1世帯あたり100万円を支給する制度で、国県から4分の3の補助がある。
今年度は5件を見込んだが今のところ実績はゼロで、来年度は1件分を予算計上した。県全体でも実績は6件しかない。

歳出

岩科診療所に 総額1億5300万円

問 岩科診療所の開設にあたり、通院にかかる交通機関や駐車場の整備の考えは。

答 統括課長 自主運行バスが岩科にも通っている。月水金であれば、買い物支援タクシーも利用できる。片道500円で通院できる。

問 指定管理者に対しては、赤字補てんなどかなり優遇されているが、新たに診療所が開設されることにより、町内2つの医院の経営に少なからず影響があると思うが、財政支援の考えはあるか。

答 町長 町内の2人の医師は高齢で、この2人の医師が多忙で、病気になるてしまうことを非常に危惧している。診療所が一つ増えることにより2人の医師の負担が緩和される。財政支援について

では、その都度考えていく。

問 診療所の整備にあたり、健康福祉課内ではどのような議論がされてきたのか。

答 統括課長 診療所については、町長の公約で岩科地区に整備すること、健康福祉課長と自分が特命を受け進めてきた。これまでは健康福祉課内のいずれの係にも属さない内容だったが、予算が承認されたら、担当の係を作り進めていく。

問 指定管理者との協定内容の合意が得られていない中、診療所の建設工事に着手するのは、非常に心配であるが。

答 統括課長 令和3年4月に開院するが、その前の議会で予算の承認を得て協定締結となる。現時点で締結する性質のものではない。

問 宿直業務を民間の警備会社に委託するというが、災害等緊急時の対応は。

答 総務課長 しっかりとした連絡体制を整え対応していく。火災の場合、消防本部から直接防災担当職員、消防団員にメール配信され出動する体制も整えている。

問 訪問給食サービスは、利用促進する方向にあると思うが、現状は。

答 健康福祉課長 年々利用者が増加している一方で、協力事業者が4社から3社に減少し、需要と供給がアンバランスになっている問題がある。町としては、需要がある限り、要望に応じていきたい。

問 棚田活用保全事業に160万円とあるが、どんな活動を考えているのか。

答 企画観光課長 石部の棚田が、国から指定棚田地域に指定された。今後、棚田地域振興協議会を設立するので運営補助を行っていく。棚田の保全に限らず、活用について観光、商工関係者を交えて、新たな体制を整えていく。

問 3月31日をもって、桜葉振興会が解散すると聞いた。今まで種の配布など行ってきたが、今後どのような形で桜葉振興を進めていくのか。

答 統括課長 桜葉振興会は平成27年に一般社団法人として設立されたが、法人税や県税、会計士への経理費用、役員変更の登記料など、法人格を有していると多くの費用が掛かるため、法人を解散し任意団体となるもの。任意のグループで継続し

ていくが、活動に支障はない。

問 プログラミング教育など、端末を使用する授業において、端末をどのように使うのか、できれば一人1台が望ましいと思うが、そのあたりの考え方は。

答 教育長 市町の児童数、生徒数やプログラミング教育の進行状況によって差がある。一人1台がいい場合もあれば、みんなに関わりあいながらやったほうがいい場合もある。現場がどのような状況にあるのか見つめながら目標を持ち、対応していく。

問 着物の似合うまちづくり推進事業について、昨年は45万円、今年は75万円と増額しているが、昨年と何か違うことを行うのか。

答 企画観光課長 イベントとしては、春と秋の開催を予定している。事業立ち上げのときは、町

民から着物や帯など多くの備品の寄附を受けた。その中でも、草履などの備品の傷みが激しく、この予算の中で購入していく。



雲見小橋の復旧の予定は（雲見）

問 雲見漁協前の橋が、昨年の台風で流され半年近く、橋のない状態となっている。聞くとところによると、町道になっているとのことだが、復旧の予定はあるのか。

答 産業建設課長 橋に流木がつかえ、川の流れを阻害して氾濫することもある。橋の集約

化が検討されている中、上流側に別の橋があり、迂回することができると認め、現在経過観察している。

問 市町對抗駅伝について、昨年度と同額の125万円が計上されている。人間関係、みんなで頑張る思いなど、未来を担う人材を育成する素晴らしい事業である。指導者は、ボランティアで子供たちの指導に協力しているが、予算を増額し指導者に報いる考えは。

答 教育委員会事務局長 今のところ、指導者の心意気が強く、ボランティアで行うことができている。なるべく指導者に負担がかからないようにしていきたいので、必要に応じ予算要求していく。

反対討論

本予算には診療所開設費用が計上されているが、条例の制定手順について何度も指摘を受けているにも関わらず、不都合なことは議会に責任を押し付け、強引な手順で現在まで来ている。5年間で3500万円あまりの赤字補填も予想され、瑕疵ある条例に基づいた診療所開設費用を含む予算を認める訳にはいかない。

賛成討論

地方圏において、医師不足が叫ばれている中、今ここで診療所の建設を進めていかなければ、将来町に大きな禍根を残す。統括課長からも、町が不利益にならないよう地域医療振興協会と交渉していくと説明があった。診療所建設事業を進めていくため、賛成する。



国民健康保険会計

予算総額は、9億9750万円、前年度比2320万円、2・3%の減となった。
保険給付費は、前年比4・8%減の7億1151万6千円を見込んだ。

問 本年度の療養給付費が昨年と比べ若干減少となっているが、その見込みについて説明を。

答 健康福祉課長 一般的に被保険者が減少傾向にあることから、医療費全体でも減少傾向にある。ただ、療養給付費については、脳、心臓疾患などの高額の手術が多いと急に伸びることもある。

問 特定健診、人間ドックは病気を予防するため両方とも必要と思うが、受診率などの傾向は。

答 健康福祉課長 特定健診の受診率は例年40%くらいだが、今年度は保健委員の口コミで5%

アップを目標に取組んでいる。

人間ドックは、1日ドック120件、脳ドック10件分を予定している。1件当たり1日ドックは2万5千円、脳ドックは1万5千円を助成する。

介護保険会計

予算総額は9億4370万円、前年度比1710万円、1・8%の増となった。

認定者数、サービス受給者数はほぼ横ばいであるが、保険給付費は1200万円余の増加が見込まれている。

問 療養給付費にも居宅介護や地域密着型、施設介護サービスの種類があるが、町として居宅介護、施設介護、どのような方向が望ましいのか。

答 健康福祉課長 ご本人からすると、自宅で訪問介護、通所介護を利用して生活するのが理想か

と思うが、介護者が高齢であったり、仕事などで介護が困難な家庭もある。施設サービスが必要な場合でも待機者があり、すぐ対応できないが、出来るだけご本人が希望する形でサービスが提供できればと思っている。

水道事業会計

給水収益を前年比102・5%で見込み、事業収益1億545万6千円、事業費用1億4893万2千円、税抜きの前年度純利益を191万2千円とした。

主な事業としては、石部地区送配水管改良工事などを予定している。

問 4〜5年前に、三浦地区の水源探索を行ったが、有望な水源は見つからなかったと思う。

今後、三浦地区全体を賄えるような水源を探すという考えは。

答 生活環境課長 岩地・石部地区へは岩科より送水し、雲見については雲見地区で水源を確保している。

三浦地区全体を賄う新たな水源の掘削については、厳しい財政の中、現状では事業を進める見込みは立っていない。



温泉事業会計

供給戸数は、家用323戸、営業用30戸。

供給収益を前年比100・3%で見込み、事業収益を6465万7千円、事業費用を5980万1千円とし、税抜きの前年度純利益を504万1千円とした。

問 温泉が余っているが、営業用を農業に使うことは可能か。

答 生活環境課長 温泉管理条例においては、営業用の用途は旅館、簡易宿所の営業のみに限られている。

伊豆まつぎ荘会計

宿泊利用者を前年比700人減の2万1800人（宿泊利用率44%）と見込み、事業収益を前年比755万円減の3億5165万円、事業費用を3億5065万円とし、当年度純利益を19万3千円とした。

問 宿泊人員2万1800人は現状の見込みと乖離しているが、達成できるのか。

答 企画観光課長 初めから低い数字ではなく、努力目標も含め2万1800人、宿泊利用率44%を掲げたので、それに向かってやって行く。

一般会計

問 補正予算(第6号)は、歳入歳出予算から7401万円を減額し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ38億9362万8千円とした。

問 個人住民税、固定資産税が年度末へきて増額補正されている。12月に補正すれば、町民に少しでも早くサービスが提供できるのではないか。

答 窓口税務課長 当初予算を計上する際には、歳入不足とならないよう安全な数字で見込んでいるため、実績では予算を上回ることは予想される。

調定額は12月でほぼ固まっているが、収納率は日々動いているので、最終的に3月補正で対応している。

問 ふるさと応援寄附金が4千万円の目標に対し、500万円の収入見込減だが、寄附を集めるにつ

いて効果があった施策、また、これから展開できる施策はあるか。

答 企画観光課長 本年度、新たに楽天のサイトを増やし、ふるさと納税の間口拡大を図った。納税額が昨年より15%伸びた要因の1つと考えている。返礼品は32業者153品目を用意しているが、まだまだ松崎には魅力ある返礼品があると思うし、新たに作り出すことも考えられる。

問 消費税増税対策として、プレミアム付き商品券事業が行われたが、3100万円も減額している。利用が伸びなかった原因は。

答 企画観光課長 住民税の非課税者と0〜2歳児の子供を持つ世帯を対象に、5千円のプレミアムが付く2万5千円分の商品券を販売した。

対象者には直接連絡し、申請期限も1月末まで延長したが、結果的にあま

り増えず、利用率は約30%に留まった。使い勝手も含めて反省する点があったと思う。

問 岩科診療所の施設設計費1200万円の財源について、過疎債を外した理由は。

答 統括課長 過疎債については、年度当初に申請すれば可能性はあったが、議会が当初予算から削除したため2次申請となった。

他の事業と合わせて申請したが、希望どおり配分されなかったため、診療所の設計費には過疎債は充てず、旧依田邸整備に全てを割り振ったもの。



利用が伸びなかった商品券

伊豆まつぎき荘会計

問 補正予算(第1号)は、収益的収入及び支出において、宿泊料や食事料などの見込み減により事業収益を2600万円減額。

一方、事業費用においても施設経営費など200万円を減額し、当年度純利益を580万円減の18万6千円とした。

問 新型コロナウイルスが世間を騒がせているが、これによるキャンセルなど、まつぎき荘への影響はどのような状況か。

答 企画観光課長 コロナウイルスの関係については既に影響が開始しており、大体400人くらいこのキャンセルがある。これについては、今後増えていく恐れが十分ある。

問 宿泊者の減で収入支出とも減額となっているが、施設経営費の光熱水費だけ大きく増えている

理由は。

答 企画観光課長 温泉の冷却に井戸水を利用しているが、それに不具合が生じ、冷却が上手くいっていない。そのため水道料が増大しているが、根本的な原因が分からず苦慮している。

問 まつぎき荘は、ふるさと納税返礼品の対象になっていると思うが、これは松崎町には寄附、まつぎき荘には営業収益となるのか。

答 企画観光課長 1月末現在で61件の利用がある。町への寄附金額が372万円、まつぎき荘の収益が111万6千円となっている。

ふるさと納税の利用者を増やし、まつぎき荘に泊まっていた多くの方を増やすうえでも、宿泊と体験をセットにしたプランなども検討していきたい。

条例

◎地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例

地方公務員法等の改正により、地方公共団体における臨時・非常勤職員 の任用が統一され、本年 4月より会計年度任用職員制度が施行される。

これに伴い、現在施行されている町条例のうち、松崎町職員定数条例など 13の条例について一部改正が必要となることから、本条例で一括して改正したもので、いずれも令和 2年4月1日より施行される。

◎松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎の設置及び管理に関する条例の一部改正

道の駅花の三聖苑内にある温泉施設「かじかの湯」が、本年3月末で営業終了となるため、本条例から営業時間と利用料

を削除するなど、必要な改正を行ったもので、令和 2年4月1日から施行される。

日帰り温泉の機能については、かじかの湯から旧依田邸に移行するが、5月上旬の供用開始に向け、改修工事が進められている。

契約

◎旧依田邸温泉施設整備改修工事請負契約の変更

昨年11月に契約し整備が進められていた同工事請負契約について、ポイラー関係の修繕や送湯ポンプの取替え、防犯灯の増工などにより、契約金額を493万3400円増額する内容のもので、原案のとおり承認した。

・変更後の契約金額
5554万3400円

・契約の相手方
河津建設株式会社

第1回臨時会

(1/29)

◎令和元年度一般会計補正予算(第5号)

今回の補正予算は、12月定例会で減額修正された旧依田邸温泉施設整備改修工事の追加費用を再度、要求してきたもので480万円が計上された。前日、議員全員で現地を確認し、やむを得ないこととして承認した。

◎公の施設の指定管理者の指定(松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎)

令和2年度から3年間、松崎町振興公社に指定管理させる内容。これには、今後整備予定の直売所や改修後の天城山房の運営も含まれていたが、人員配置や収支見込み、運営方針が不透明など、まだまだ協議する必要がありとして否決となった。

◎公の施設の指定管理者の指定(松崎町観光・文化施設旧依田邸)

令和2年度から3年間、松崎町振興公社に指定管理させる内容。

旧依田邸については、温泉施設改修に既着手しており、指定管理を先送りにはできない。また、収支を考えたとき、利用料金に疑問はあるもの、町から見直しの提案があれば議論できることから、原案のとおり承認した。

第2回臨時会

(2/3)

◎公の施設の指定管理者の指定(松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎)

第1回臨時会で否決となった議案について、直売所を除いた内容で、再度上程された。否決の原因となった関係が見直されたことから、原案のとおり承認した。

人事案件

◎監査委員の選任

土田利雄氏(江奈一)が3月31日をもって任期満了となるため、新たに藤井隆幸氏(那賀)を選任することについて同意したものの。

任期は令和2年4月1日から4年間。

◎固定資産評価審査委員会委員の選任

山本和彦氏(道部)が5月13日をもって任期満了となるため、新たに山本真一郎氏(峰)を選任することについて同意したものの。

任期は令和2年5月14日から3年間。

議会事務局職員人事異動

議会事務局長 山本 稲 一
(総務課長)

会計管理者 鈴木 清 文
(議会事務局長)

※4月1日付け、()は旧任

第1回・2回臨時会及び第1回定例会 賛否状況一覧

| | 議案番号 | 議 員 件 名 | 田 | 鈴 | 小 | 深 | 渡 | 高 | 土 | 議決状況 |
|--------|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|------|
| | | | 中 | 木 | 林 | 澤 | 辺 | 柳 | 屋 | |
| | | | 道 | 茂 | 克 | 守 | 文 | 孝 | 清 | |
| | | | 源 | 孝 | 己 | | 彦 | 博 | 武 | |
| 第1回臨時会 | 議案第1号 | 令和元年度松崎町一般会計補正予算(第5号)について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第2号 | 公の施設の指定管理者の指定について(松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎) | × | × | ○ | × | ○ | ○ | × | 否決 |
| | 議案第3号 | 公の施設の指定管理者の指定について(松崎町観光・文化施設旧依田邸) | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| 第2回臨時会 | 議案第4号 | 公の施設の指定管理者の指定について(松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎) | ○ | × | ○ | ○ | × | ○ | ○ | 原案可決 |
| 第1回定例会 | 議案第27号 | 令和元年度旧依田邸温泉施設整備改修工事請負契約の変更について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第5号 | 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第6号 | 松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第7号 | 賀茂地区障害者地域生活支援拠点事業運営協議会の設置について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第8号 | 静岡県市町総合事務組合理約の一部を変更する規約について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第9号 | 令和元年度松崎町一般会計補正予算(第6号)について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第10号 | 令和元年度松崎町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第11号 | 令和元年度松崎町介護保険特別会計補正予算(第2号)について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第12号 | 令和元年度松崎町水道事業会計補正予算(第2号)について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第13号 | 令和元年度松崎町温泉事業会計補正予算(第2号)について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第14号 | 令和元年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算(第1号)について | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第15号 | 令和2年度松崎町一般会計予算について【修正案】 | ○ | × | × | ○ | × | × | ○ | 原案可決 |
| | | 令和2年度松崎町一般会計予算について【原案】 | × | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × | |
| | 議案第16号 | 令和2年度松崎町国民健康保険特別会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第17号 | 令和2年度松崎町後期高齢者医療特別会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第18号 | 令和2年度松崎町介護保険特別会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第19号 | 令和2年度松崎町水道事業会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第20号 | 令和2年度松崎町温泉事業会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第21号 | 令和2年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第22号 | 令和2年度松崎町岩地集落排水事業特別会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第23号 | 令和2年度松崎町石部集落排水事業特別会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第24号 | 令和2年度松崎町雲見集落排水事業特別会計予算について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |
| | 議案第25号 | 監査委員の選任について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 同意 |
| | 議案第26号 | 固定資産評価審査委員会委員の選任について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 同意 |
| | 意見書案第1号 | 新たな過疎対策法の制定を求める意見書の提出について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 原案可決 |

賛成：○ 反対：× 欠席：欠

町政を問う



消防団員の待遇改善を（令和2年消防団入団式）



小林克己議員

問 消防団待遇改善予定は

答 安全な活動が最重要

問 令和2年度の防災資機材等整備事業で団旗等の買い換えの予定は。

答（町長）

団旗及び第3・第4分団の分団旗の傷みが激しいことは認識しているので、本年度末までに購入する準備を進めている。

問 町独自で消防団への待遇改善の予定はあるか。

答（町長）

安全確保につながる装備や、効率的に活動できる資機材を充実させることが最も重要である。

町独自で保険加入や新入団員への優遇措置は現在ないが、非常勤の地方公務員になるので消防団員等公務災害補償等共済に加入などしている。

問 退職消防団員に町独自で、入浴施設や入館施設などに割引価格で利用してもらおうなどの優遇措置を検討してはどうか。

答（総務課長）

退職消防団員には、退職報奨金や記念品を贈っている。施設利用に関しては、施設の方と相談して実現できるのか検討していきたい。

問 女性消防団員の設立の検討はしているのか。

答（町長）

団員確保が大きな課題である。県内29の消防団では、女性の持つソフトな面を活かして啓発活動で活躍している。過去に引き続き検討したい。

問 津波浸水区域の詰所と津波避難タワーの併設を検討してはどうか。

答（町長）

位置関係などを考慮し検討する。

問 eスポーツ交流を

答 開催計画はない

問 eスポーツによって地域活性化を図る取り組みをしてはどうか。

答（町長）

プレイヤードけでなく運営を担う人、支える人の存在が重要で地元根差したゲーム関連コミュニティがなければ始まらない。

プレイする専用施設も必要となるなど課題があることから、今のところ開催計画はない。

問 回覧板配布の負担減へ

答 情報収集に努める

問 回覧板をタブレットにしてはどうか。

答（町長）

回覧や各戸配布文書の仕分け、配布に関する負担が非常に大きいと聞いている。タブレットを利用すれば負担が軽減できる他、印刷費用の節約にもなる。しかし、タブレット端末を操作できる人の数を考えると少し早すぎるので、将来も見据えて端末の活用について情報収集に努めたい。

問 フェリーの松崎就航は

答 積極的に働きかける



鈴木 茂孝 議員

不完全ではないかとのことであるが、町としては十分練ってやってきた。

ている方がおり、プロデューサーを招くことは考えていない。

問 高校の通学補助は

答 創設は考えない

昨年6月に一般質問

問 下田に大学生の拠点となる賀茂キャンパスが開所された。大学生との交流も高校の魅力化の一つとなると思うが。

答 (町長)

松崎高校の生徒にとつて非常に有意義なことなので積極的にやっていく。

答 (町長)

松崎町民、近隣市町の方に来てもらいたいと考えている。

答 (教育長)

検討はしたが、生徒数の減少により、現在は高校の魅力化を最重要課題と考えている。

問 大学生の宿泊場所に町の山田邸を使う考えは。

答 (企画観光課長)

ぜひ使っていただけるように周知していきたい。

問 フェリーの松崎就航について、どのような効果を期待しているのか。

答 (町長)

利用客の多くは観光客であり、地域経済活性化につながるかと考えている。

問 商工会、観光協会、農業振興会との連携は。

答 (企画観光課長)

具体的な話が出てきたら町としてどういう体制を組むのか検討していく。

問 直売所案の否決は

答 誠に残念に思う

問 直売所の計画案が否決となったが、どのように受け止めているのか。

答 (企画観光課長)

事業計画や収支計画が

問 地元として積極的に進めるためにどのようなことをしているのか。

答 (町長)

一般社団ふじさん駿河湾フェリーで具体的な検討がされるよう、積極的に働きかけていく。

答 (町長)

町内にも農業に精通し

問 経営、集客について実績のあるプロデューサーを招いて構想から見直してはどうか。

答 (町長)

町内にも農業に精通し



駿河湾フェリーの松崎就航に向けて



この席には誰が座るのか



田中道源議員

問 副町長不在の件は

答 来年度に選定

問 これまで2回、一般質問しているが、その後の経緯は。

答 (町長)

まだ候補者の決定には至っていない。来年度早々には結論を出したい。

問 町長の掲げる町民満足度の高い町の中に、危機管理や町政の円滑な運営が含まれていると思う

が、2年以上果たされていない。これは町長の職務を全うしていないのではないか。

答 (町長)

そのようには考えていない。財源の乏しい町なので、費用対効果のある人物を選びたい。これまでも、公務等自ら出席しており、不都合を感じたことはない。

問 支障はないという認識自体が問題である。組織の長だからできること、長でしかできないことがある。自ら行っているから良いのだという答弁自

体が誤魔化しであり、そういう姿勢が役場内での不祥事の遠因になっているのではないか。

答 (町長)

性格上、嫌なものから目を背けたりはしない。大局を見極めて任せるところは任せている。早い時期に副町長を選任するつもりだ。

問 高木統括の退職後、副町長不在の穴埋めほどのようにするのか。

答 (町長)

総務課長他、レベルの高い課長がたくさんいるので、役場はしっかりと回っていく。

問 岩科診療所は防災拠点か

答 救護体制の一翼

問 2月18日の全員協議会で防災拠点と言ったつもりはないと発言したのは本当か。

答 (町長)

防災業務全般ではなく、

救護面での役割を期待している。

問 建設場所が岩科川の氾濫区域になっていると聞く。床上浸水の可能性があるが、一番必要な有事の際に救護の拠点として対応できるのか。

答 (統括課長)

100%安全なところはない。町内で一番良い場所を選定している。浸水への対策は、設計士とも知恵を絞っている。

問 協定内容について、議会でもむ機会はあるのか。工事が始まってから協定が折り合わなかった場合、箱だけあって主がないことにならないか。

答 (統括課長)

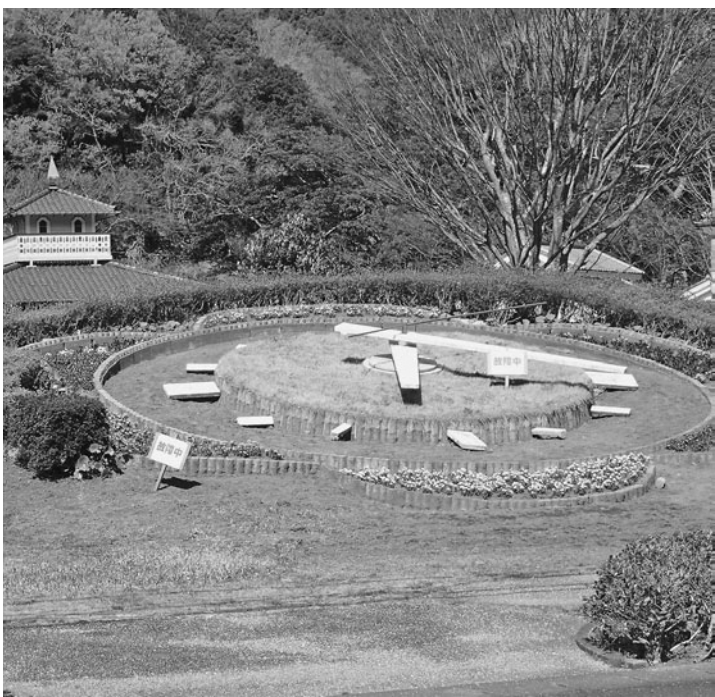
相手方や顧問弁護士とも相談して協定書を作成し、今後の全員協議会で示していく。普通の感覚では町民に不利になる協定書にはならない。今の時点でそこまで求めるのはいかがなものか。

問 道の駅整備について

答 一時中断とする



高柳 孝博 議員



故障中の花時計や三聖会堂はどうなるのか

問 かじかの湯を残す考えはあるか。

答 (町長) 旧依田邸の温泉施設の完成を待って温泉機能を移行するが、当面の間、建物だけ残る形になる。

問 花時計の修理が必要ではないか。

答 (町長) 解体予定であった花時計も残ることから修理も検討する。

問 三聖会堂の改修の考えはあるか。

答 (町長) 大きな改修予定はないが、柱や壁の修繕などは実施する。

問 直売所設置計画の代替案はあるか。

答 (町長) 現在のところ代替案はないが、旧依田邸や温泉施設のオープン、クルーズ船飛鳥IIの松崎寄港や駿河湾フェリーの松崎寄港の可能性などをチャン

スと捉えて交流人口の拡大、地域経済の活性化に結び付けていきたい。

問 関係者のモチベーションへの影響は。

答 (町長) 職員をはじめ基本計画策定委員会、ワーキンググループ、農業委員会、行政調査委員会等の尽力頂いた方々へも大きな影響があったと感じている。

問 今後の直売所整備の考えはあるか。

答 (町長) 道の駅の発展や産業の振興、地域の活性化のため道の駅の整備は必要と考える。

問 観光振興計画について

答 今ある施策を着実に

問 策定予定の景観計画

はどのようなものか。また、観光振興計画を作りDMO事業を展開する考えはあるか。

答 (町長) 景観計画は景観重要建造物の指定や景観重要公共施設の整備方針、景観形成に関わる基準等をまとめたもの。観光振興計画は新たなものではなく、現在の観光振興施策と伊豆半島の市町と連携したDMO事業を展開していく。

問 ふるさと納税の増大は

答 広報と返礼の充実で

問 感謝券、交通費セツトの宿泊体験プラン、観光ガイド付きの町内探索メニューなどの考えはあるか。

答 (町長) 広報の充実のほか魅力的な返礼品が必要であり、提案のあったメニューも検討していく。



問 副町長の選任は

答 私を諫めてくれる人



深澤 守 議員

問 町長に諫言できる副町長を選任することが大事だと思うが、町長の見解は。

答 (町長)

全くそのとおりだと思う。私には独断専行というイメージが定着化していて、自分にとって不利だと思っている。行政のことを全部わかっていくわけではないので、聞く耳をより一層持つて行かないと、まずいと思っています。

問 役場の組織改革は

答 今は考えていない

問 行政の広域化、地域コミュニティの強化など、

現状の役場組織では対応しきれないのではないかと、役場の組織改革は考えているか。

答 (町長)

確かに近年は、権限移譲による事務や、「日本で最も美しい村」連合への加入、地方創生事業など扱う業務は増える一方

であるが、今後も町を継続していくためには実施していかなければならない重要な事業だと思う。人口減少が著しく、職員の増員が難しい中では組織改革も一つの方法であるが、これらの事業に重要度や優先順位をもつて整理することで対応していきたい。

問 組織を動かすのは人材である。職員の不祥事や以前からの色々な問題を含め、当局として、第三者を入れた業務や人員配置の見直しを行う協議会などを設置する考えはないか。

答 (総務課長)

今回の不祥事を受け、コンプライアンス研修などを考えたが、コロナウイルスの関係で見合わせている。町としては対応は必要と認識している。組織見直しのための協議会については、小さな役場でもあり、今のところ設ける予定はない。

問 企業でも外部の人に頼んで、しっかりと検証して、組織改革をやるという実例がある。是非やってみては。

答 (町長)

外部からアドバイスをもらうことは、非常に良い考えだと思う。今のところ、すぐにやるということはないが、今後も議論していきたい。

問 弁護士の回答書

答 私は見ていない

問 診療所開設手続きについて、顧問弁護士は問題ないと言っているというが、その根拠が示されない。町長は弁護士の回答書を見たのか。

答 (町長)

統括課長から口頭で聞いている。



今後の組織改革は (町長訓示の様子)

次の定例会は、6月9日(火)からの予定です。

議会のうごき

1月

- 16・23日 広報編集委員会
- 22日 議会全員協議会
- 23日 賀茂郡町議会議長会議（河津町）
- 27日 静岡県地方議会議長連絡協議会
政策研修会（静岡市）
- 29日 第1回臨時会
- 30日 議会だより126号発行

2月

- 3日 第2回臨時会
- 4日 伊豆縦貫自動車道天城峠道路・アクセス道
路要望活動（東京都）
- 17日 下田メディカルセンター議会定例会
- 18日 議会全員協議会
- 18日 下田地区消防組合議会定例会
- 26日 議会運営委員会・広報編集委員会
- 28日 議員会勉強会

3月

- 4日～11日 第1回定例会
- 26日 西豆衛生プラント組合議会定例会

表紙の写真「那賀川沿いの桜」は文化協会写真部より提供。

発行責任者

議長 藤井 要

編集委員長

渡辺文彦

編集委員

田中道源
鈴木茂孝
小林克己
深澤守
高柳孝博
土屋清武



この人に
聞きました②④
聖和保育園園長
宮本さなえさん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、聖和保育園園長に最近の保育園についてお話を伺いました。

さとを愛する心を育てていきたいと思えます。また、主体的な行動を促し、支え自律心を高めていくことを願います。

設も人も不足し、就労支援が十分にできない状況で、また予測も難しく対応に苦慮しています。

○保育園ではどのような事を意識していますか？

私たちは成長の基礎となる乳幼児期の子どもをお預かりしています。キリスト教保育を軸に、子ども達に愛情をもって接することで自己肯定感を養い、自分や他者、ふる

○保育園ではなにか課題はありますか？

ここ数年は、待機児童が課題です。町の子どもの数は減っていますが、就労される方が増え、未満児の入所希望も増えていきます。余裕をもって建てたはずの園ですが、施

○保育園ではなにか要望はありますか？

A・L・Tの派遣を要望したいです。外国の方との交流は、言葉や文化はもちろん、子ども達の世界を広げるとともに、自分達を見つめ直す良い機会になると思います。

（聞き手 編集委員長）

海鳴り

松崎高等学校が令和5年に創立100周年を迎えます。

松崎高等学校は大正14年松崎実科高等学校の卒業生37名に始まり、令和元年度までに1万4688名が卒業しました。昭和41・42年には卒業生は638名とピークを迎え、以後も年200名以上の卒業生がありました。が、平成6年頃より100名台に、令和元年度には98名となり、最近では募集人員80名に対し受験者数が下回っています。少子化が進み松崎・西伊豆で新生児が50人を下回る状況が推測される中、地域の活性化、教育環境の維持向上を図っていくために松崎高校の存続は無くしてはならないと強く思っています。地域と共に歩み歴史を刻んだ松崎高校をこれからも守り育てていきたいと思います。

（議長）